

## 第 2 回学校環境衛生研究協議会報告

渡邊 章代

日時：平成 24 年 8 月 12 日（日）10：00～16：20

場所：東京都中央区 日本橋公会堂

### 講演 循環型社会と放射線物質汚染

東京大学大学院工学系研究科 都市工学専攻教授 森口 祐一

廃棄物問題と循環型社会

発生抑制 > 再使用 > 再生利用 > 熱回収 > 適正処分

災害廃棄物問題への対応

原発事故による放射能汚染問題

震災・原発事故後の循環型社会づくり

放射能汚染を広げないために有用な物質、有害な物質の適正な管理が必要

### 講演 シックハウス症候群と今後の取り組み方について

東京大学名誉教授、開成中学校・高等学校校長 柳沢 幸雄

基準はシックハウス症候群にならないための数値、一度シックハウス症候群になると低用量でも症状はでる。

ホルムアルデヒドの規制は順守されているが、シックハウス症候群が減らないのは規制されていない揮発性有機化合物によるものである。

揮発性有機化合物の総量が問題

建築業者からの引き渡し時には TVOC を測定する。

400  $\mu\text{g} / \text{m}^3$ 以上のときは安全性の証明を建築物の供給者が行うか、低減化対策を実施する。（エチレン、キシレン等は比較的高くても安全。イソシアネートは低くても有害なので規制するべき。引き戸を開けておくのは低減化に有効。）

400  $\mu\text{g} / \text{m}^3$ 以下でも有害な物質のリスク評価は今後も厚生労働省が継続して調査し、指針値を定める事が必要。

### 発表

座長 実行委員会副委員長 石川 哲也

給食室のゴキブリの生息状況及び防除の実態について

埼玉県学校薬剤師会監事 金子 栄一

ゴキブリの防除をしても、ゴキブリの生息状況が変わらない場合がある。

定期的にゴキブリの生息状況を調査してから、防除の必要性を決めるべきではないだろうか。（月 1 回程度）

防除後にゴキブリを防除できたかどうかの確認が必要ではないだろうか。

日常の給食室の整理整頓がゴキブリの増殖を予防する。

学校環境衛生活動の充実に対する愛知県の取り組み

(一社)愛知県学校薬剤師会副会長 木全 勝彦

学校環境衛生検査(定期検査)の完全実施をめざす。

標準的な学校薬剤師研修資料の充実

日常点検の計画的実施の提案

学校環境衛生と基礎研修会について

(一社)東京都学校薬剤師会副会長 岡本 繁雄

外部専門講師による基礎研修を実施している。(機器・機材メーカーの講師)